



第21回中山義秀文学賞公開選考会 県内出身、風野さんの「沙羅沙羅越え」が受賞

11月22日、白河信用金庫西支店新白信ビル（立石）で、優れた歴史・時代小説を顕彰する「第21回中山義秀文学賞公開選考会」が行われました。

作家の津本陽さん、竹田真砂子さん、安部龍太郎さん、文芸評論家の縄田一男さんら4人の選考委員が、32点の応募作品の中から最終選考に残った3作品を、公開形式で講評しました。選考の結果、風野真知雄さんの「沙羅沙羅越え」が選ばれました。本県出身の受賞者は初めてです。



▲公開選考会の様子

包括連携協定締結式 経済活性化、子育て支援などで連携

11月25日、地域の活性化および市民サービスの向上を目的に、本市と㈱大東銀行との包括連携協定締結式が行われ、鈴木市長と鈴木孝雄取締役社長が協定書を交わしました。

締結式で、鈴木市長は「連携を強め、住みやすい白河をつくりたい」、鈴木取締役社長は「企業誘致や子育て支援などで協力し、市の発展に貢献したい」とそれぞれあいさつしました。今後は、経済活性化や子育て・防災支援などで連携を図っていきます。



▲協定書を交わす鈴木取締役社長（右）と鈴木市長

とよたかずひこさん講演会 絵本の世界に触れる

12月12日、りぶらんで、「ももんちゃんあそぼう」シリーズや「でんしゃにのって」などで著名な絵本作家、とよたかずひこさんを招き、「ももんちゃんあそぼうinしらかわ」と題した児童向け講演会が行われました。

とよたさんは、紙芝居や絵本の読み聞かせのほか、絵本創作のきっかけになったエピソードなどを話しました。会場に詰め掛けた親子連れは、絵本の世界に触れ、楽しいひとときを過ごしました。



▲絵本の読み聞かせをするとよたさん



▲光り輝くはたらくくるまのイルミネーション

白河駅前イルミネーション 美しい輝きが白河駅周辺を彩る

12月4日、えきかふえSHIRAKAWAウッドデッキ前（郭内）で、「白河駅前イルミネーション点灯式」が行われました。

市中心市街地活性化協議会が関係機関の協力を得て毎年行っているもので、今年は「明るく笑顔」をテーマに、約3万個の電飾がりぶらん（道場小路）からコンピエーニュ広場まで飾られています。今回、新たに光のトンネルが設置されたほか、白河商工会議所青年部の主催で、市内小・中学校、高校、企業が作成したペットボトルツリーが、JR白河駅前イベント広場を彩っています。

イルミネーションの点灯は1月31日(日)まで行っていますので、美しい輝きに彩られた風景を、ぜひご覧ください。



▲点灯式の様子

歴史まちづくりシンポジウム 超高齢化社会に向け、今後のまちづくりを考える

11月14日、りぶらんで、「超高齢化社会における歴史都市の住生活まちづくり」と題したシンポジウムが開催されました。

基調講演、各地のまちづくり先進例の解説のほか、パネルディスカッションが行われ、国の職員、日本建築学会に所属する専門家、市民で構成されたパネリストが、目指すべき市街地の将来像とそのためのもまちづくり施策について意見を交わしました。約140人の来場者は、興味深く耳を傾けていました。



▲パネルディスカッションの様子